

これは、2014年2月6日にダイムラーAGから発表されたプレスリリースの日本語抄訳です。

ダイムラーの2013年業績は好調に推移： 販売台数、売上高、EBIT、当期純利益で過去最高を記録

Press Information

2014年2月21日

- ・ グループ EBIT は 108 億ユーロ(2012 年: 88 億ユーロ)
- ・ 継続事業 EBIT 79 億ユーロ(同 82 億ユーロ)
- ・ 当期純利益 87 億ユーロ(同 68 億ユーロ)
- ・ 総販売台数は 235 万台に増加(同 220 万台)
- ・ グループ売上高は 1,180 億ユーロに増加(同 1,143 億ユーロ)
- ・ 配当は 1 株当たり 2.25 ユーロへの引き上げを提案
- ・ 2014 年見通し: 販売台数、売上高は大幅な伸びとなるほか、継続事業によるグループ EBIT も大幅増を予測

ダイムラーAGは2月6日、ダイムラー・グループおよび各部門の2013年決算を発表しました。販売台数、売上高、EBIT、当期純利益で過去最高を記録しました。2014年についても、製品ポートフォリオの強さや生産・新技術への投資継続、さらに有利な市場動向の見通しから、いっそうの成長を見込んでいます。

ダイムラー社取締役会会長 兼 メルセデス・ベンツ・カーズ統括のディーター・ツェツェは次のように述べています。「2013年当初はとりわけ良いスタートではありませんでしたが、終わりは非常によく、努力が報われた形です。ダイムラーはきわめて良好な状態にあり、今後についても、大胆な目標を全部門で達成できる自信を持っています」。

EBITは前年比23%増の108億ユーロで、ダイムラー創業以来の最高を記録しました。継続事業によるEBITは79億ユーロ(2012年: 82億ユーロ)と、予想の約75億ユーロを大きく上回りました。当期純利益も過去最高の87億ユーロとなりました(同68億ユーロ)。

総販売台数は235万台へと増加し、前年に達成した過去最高を7%上回りました。全自動車部門が貢献しており、メルセデス・ベンツ・カーズ8%増、ダイムラー・トラック5%増、メルセデス・ベンツ・バン7%増、ダイムラー・バス5%増でした。販売台数増加により、グループ売上高も3%増加し、過去最高の1,180億ユーロに達しました。為替変動の影響を除いた売上高伸び率は7%でした。

取締役会および監査役会では、2014年4月9日に開催予定の年次株主総会において、1株当たりの配当を2.25ユーロとすることを提案します(同2.20ユーロ)。ダイムラー社取締役ファイナンス・コントロール/ダイムラー・ファイナンシャル サービス統括のボド・ユッパは次のように話しています。「この増配は、好調な業績を株主の皆様への利益

分配に反映させるとともに、現在進めている事業展開に対するダイムラーの自信を示すものです。この配当案はダイムラーとして過去最高額となります」。配当総額は 24 億 700 万ユーロ(同 23 億 4,900 万ユーロ)、株主帰属純利益に占める割合は 35%となります。なお、株主帰属純利益に対する配当総額の割合は、今後 40%程度を目指していきます。

産業部門の純流動性は順調に推移し、2012 年 12 月 31 日を 23 億ユーロ上回る 138 億ユーロとなりました。この増加は主に、産業部門のフリーキャッシュフローが 48 億ユーロのプラスとなったことによるものです(同 14 億 5,000 万ユーロ)。産業部門フリーキャッシュフローが好調だった理由としては、全自動車部門が EBIT 増益に寄与したことや、EADS 社の株式売却が順調だったことが挙げられます。このフリーキャッシュフローはさらに、決算報告日に関わる要因により 15 億ユーロ押し上げられていますが、この増加分は翌年に相殺されます。反対にマイナス要因としては、大規模な設備投資・無形資産投資、BAIC Motor Corporation Ltd.(BAIC)社株式の 12%を 6 億ユーロで取得したことが挙げられます。

ユッバーは次のように述べています。「ダイムラーは健全な財務基盤を持ち、資本市場から多額の資金を調達できる状況にあります。製品攻勢や、生産能力の拡大計画、新開発案件の資金を賄うのに必要な資源を自由に使えるのです。市場の不安定な動きに対して十分な備えがあるとも言えます」。

ダイムラー・グループの世界従業員数はきわめて安定しており、2013 年末現在で 27 万 4,616 人となりました(2012 年: 27 万 5,087 人)。ドイツ国内の雇用は 16 万 7,447 人(同 16 万 6,363 人)でした。

ダイムラーでは、フレックスタイム制の導入や保育施設の整備などにより、職場における女性の活躍を一貫して支援しており、グループ全体の幹部職に占める女性の比率を 2020 年までに 20%に拡大する取り組みを進めています。女性幹部の比率は近年上昇を続けており、2013 年末には 13%となりました。なお、前年度末は 12%で、毎年 1 ポイントずつ高めていく目標を達成したことになります。

部門別の詳細について

メルセデス・ベンツ・カーズ(メルセデス・ベンツおよびスマート)の総販売台数は 156 万 5,600 台(同 145 万 1,600 台)と、ふたたび前年比増を達成しました。売上高も前年比 4%増の 643 億ユーロで過去最高となりました。EBIT は 40 億 600 万ユーロで、前年の 43 億 9,100 万ユーロに比べて減益となりました。売上高利益率は 6.2%(同 7.1%)でし

た。2013年第4四半期は7.5%でした(前年同期:5.3%)。

Page 3

増益要因としては、ダイムラー・グループのコンパクトカーラインアップが拡大したことなどから、中国、米国、西欧を中心とした販売台数の増加が EBIT へプラスに働いたことや、価格設定の成功、それに「Fit for Leadership」プログラムの効率向上活動が挙げられます。一方、減益要因としては、モデル構成比率の変化や、為替変動のマイナス影響、クルマの装備の高級化、生産能力拡大、新技術・新モデルのための先行支出があります。このうち、代替駆動システム関連では特別支出 1 億 7,400 万ユーロを計上しています(2012年:5,100万ユーロ)。

ダイムラー・トラックでは販売台数が 48 万 4,200 台となりました(同 46 万 2,000 台)。売上高は 315 億ユーロで、為替変動の影響により前年実績より微増となりました(同 314 億ユーロ)。EBIT は 16 億 3,700 万ユーロ(同 16 億 9,500 万ユーロ)、売上高利益率は 5.2%(同 5.4%)でした。

販売台数の回復はとくに第 4 四半期に顕著に見られ、増益要因となりました。一方ではブラジル市場の回復があり、他方では、西欧で 2014 年の「ユーロ 6」実施による排ガス規制強化を控えた駆け込み需要発生などによる押し上げがあったためです。ただ、EBIT は保証費用の増加と為替変動の影響により減少しました。さらに、ドイツとブラジルにおける最適化プログラムによる人員調整のために、総額 1 億 1,600 万ユーロの支出が発生しました。一方、「ダイムラー・トラック#1」プログラムで実施した効率向上対策は増益要因となりました。

メルセデス・ベンツ・バンは、欧州の市場環境が厳しい中でも世界販売台数を前年より 7%伸ばし、スプリンター、ビト、ピアノ、バリオ、シタン合計で 27 万 100 台でした。売上高も 94 億ユーロと、前年実績を上回りました(同 91 億ユーロ)。EBIT は 6 億 3,100 万ユーロ(同 5 億 4,300 万ユーロ)、売上高利益率は前年の 6.0%から 6.7%まで改善しました。

EBIT 増益の要因としては、販売台数増加と価格設定の成功が挙げられます。加えて、「パフォーマンスバン 2013」プログラムによる継続的な効率向上も EBIT 改善に寄与しました。減益要因としては、新型モデル関連の先行費用が挙げられます。なお前年度決算では、メルセデス・ベンツ・バンでは、中国の合弁会社 Fujian Benz Automotive Corporation 社への投資評価損として 6,400 万ユーロを計上していました。

ダイムラー・バスでは世界販売台数(完成車およびシャーシ)が前年比 5%増の 3 万 3,700 台(同 3 万 2,100 台)となり、主力の車両総重量 8 トン超バス市場におけるトップ

の座を守りました。また売上高は 4%増の 41 億ユーロとなりました。EBIT はプラス 1 億 2,400 万ユーロと黒字を回復しました(同マイナス 2 億 2,100 万ユーロ)。売上高利益率は 3.0%となりました(同マイナス 5.6%)。 Page 4

この増益の最大要因は、西欧およびラテンアメリカにおける販売台数の増加です。そのほか、効率のいっそうの向上や、欧州およびアメリカ事業のポジショニング見直し費用の減少が寄与しています。

ダイムラー・ファイナンシャル サービスは前年に引き続き非常に好調で、ローンおよびリースの新規契約は全世界で 120 万件近くに達し、契約台数が初めて 300 万台の大台を突破しました。新規事業は前年比 6%増の 405 億ユーロと、過去最高を記録しました。世界契約額は前年実績を 4%上回る、過去最高の 835 億ユーロとなりました。為替調整後の伸び率は 11%でした。EBIT は 12 億 6,800 万ユーロで、前年実績(12 億 9,300 万ユーロ)に近い水準となっています。株主資本利益率は 19.2%でした(同 22.0%)。

増益要因は契約額の増加、減益要因としては、為替レートの推移と金利マージンの減少に加え、事業拡大にともなう支出が増大したことが挙げられます。

以上の部門の EBIT からグループ EBIT への「調整」の部は、企業レベルでの損益や、部門間のグループ内取引消去による収益への影響を含んでいます。企業レベルでの損益は、現在残存する EADS 社株式が売却されるまでの期間については、ダイムラーに案分された持分法投資損益を含んでいます。EADS 社への投資損益案分には、残存株式の再評価および売却によるキャピタルゲイン 32 億ユーロが含まれます。ダイムラーは 2013 年 4 月初めに旧 EADS 株主協定を脱退しました。売却に当たってダイムラー・グループは、金銭による和解を含む合意を結びました。この合意によりダイムラーは 2013 年末まで、EADS 株価上昇の場合はその利益に限定的に与ることが認められており、この規定にもとづき 4,400 万ユーロの利益を得ました。

企業レベルでの他の項目に対しては 1 億 9,100 万ユーロの損失が計上されています(2012 年: 1 億 1,300 万ユーロの損失)。グループ内取引消去による影響は 8,200 万ユーロのプラスとなりました(同プラス 800 万ユーロ)。

将来への投資

ツェッチェは次のように述べています。「ダイムラーでは、今後も未来を拓く革新技術により、自動車業界の技術変革に積極的な役割を果たしていきたいと考えています。この

ため**研究開発**への投資は 54 億ユーロと、前年に続いて非常に大規模なものとなりました。なお、前年度の**研究開発**への投資は 56 億ユーロでした。売上高に対する**研究開発費**の比率も 4.6%と、引き続き高い水準に留まりました(同 4.9%)。主な投資分野は、**新型モデル**関連、**超低燃費かつ環境対応型の駆動システム**、それに**新たな安全技術**となっています。ダイムラーでは、**車両全体の効率性をいっそう高めるべく**、**エネルギー管理**や**エアロダイナミクス**、**軽量構造**など、あらゆる面で取り組みを進めています。

グローバルな成長戦略の面では、**国際的な自動車市場が生み出すチャンス**をうまく生かしたいと考えています。これには、**新製品や新技術**に対してだけでなく、**世界生産体制の拡大**に向けた**大規模な投資**が必要となります。このことから 2013 年も前年に引き続き**設備投資**を大幅に増やし、50 億ユーロとしました(同 48 億ユーロ)。このうち**ドイツ国内の設備投資**は 32 億ユーロでした(同 33 億ユーロ)。

メルセデス・ベンツ・カーズの 2013 年の**設備投資**は、前年比 6%増の 37 億ユーロとなりました。このうち最も重要な**プロジェクト**としては、**新型 S クラスの生産**と**新型 C クラスの準備**が挙げられます。新型 C クラスの生産は**ブレーメン(ドイツ)**のほか、**タスカルーサ(米国)**、**北京(中国)**、**イーストロンドン(南アフリカ)**でも行われます(2014 年予定)。さらに、**ウンターウルクハイム(ドイツ)**の**トランスミッション生産**の近代化・拡大や、**米国での生産能力拡大**でも多額の投資を行いました。

ダイムラー・トラックで**主な投資対象**となったのは、**新型アロクス(建設現場向け大型トラック)**や、**エンジン**と**その他主要コンポーネント**の**世界規模での標準化**のための、さまざまな**プロジェクト**でした。また、**ブラジルの生産能力増強**と**インドのパーラト・ベンツ新工場**に対する投資を行いました。同部門の**設備投資総額**は 8 億ユーロとなりました(同 10 億ユーロ)。

各市場の見通し

2014 年は**経済見通し**に明るさを増したことから、**世界乗用車需要**もさらに拡大するはずですが、**現在の状況**から判断すれば、**需要の伸び**は 4~5%となる見込みです。

中国市場は今年もやはり、**地球規模での市場の成長**に最も大きく貢献するものと見られますが、**米国市場**も**拡大の見込み**です。**西欧乗用車市場**は過去数年にわたって大幅に縮小しましたが、2014 年も**回復は力強さを欠く見通し**です。**日本**も**乗用車需要**が低下しそうです。主要新興国市場(中国を除く)では、**昨年の低迷**に続き、**需要**がさらに落ち込むことが予想されます。**ロシア市場**は昨年よりわずかに**拡大**、**インド**でも**乗用車市場**の**控えめな回復**が見込まれます。

中型および大型トラックの世界市場は、厳しい市場の状況にもかかわらず 2013 年に Page 6
目に見えて拡大したことを受けて、今年も世界規模で緩やかな需要の伸びが期待され
ます。ただ、市場動向は地域によって大きく異なるでしょう。

NAFTA 地域では、経済活動がますます活発化しており、最大 10%の市場拡大が見込
まれます。欧州市場の最近数ヶ月の動向を最も左右した要因は、今年実施される
排ガス規制「ユーロ 6」でした。今後最も注目されるのは、その駆け込み購入のマイナ
スの影響が、欧州の景気回復によってどの程度相殺されるかということです。ダイムラー
では現在の状況をもとに、通期の市場規模は 2013 年をわずかに下回ると予想しています。

2014 年の日本は、景気刺激策や拡張的金融政策が継続されて、トラック市場にもよい
効果をもたらす見込みで、小型、中型、大型のトラックすべてにわたってわずかな拡大
が見込まれます。ブラジルの中型・大型トラック市場は、昨年をわずかに下回る水準と
なりそうです。これは主に、投資活動が平均を下回ることや、ローン金利補助がいくぶん
不利な条件となるためです。ロシアでは、トラック需要のわずかな回復が見込まれます。
インド市場はここ数年大きく縮小しましたが、今年は安定化するでしょう。世界最大の
トラック市場である中国は、緩やかな拡大となる見通しです。

部門別見通し

メルセデス・ベンツ・カーズでは 2014 年も「メルセデス・ベンツ 2020」攻勢を実施し、
一貫して成長路線を追求していきます。モデルラインアップの若返りと、主要新型モデル
発売の効果により販売台数は大幅に増加し、過去最高に達すると予想しています。
モデル別で販売台数の増加に大きく寄与すると見られるのは、新型 S クラスです。今年
第 3 四半期には新型クーペも登場し、ラグジュアリーセグメントに新たなスタンダードを
設定します。新型 C クラス セダンは、欧州では 2014 年 3 月にもお客様への納車を
開始します。また、規模の大きいコンパクトカー市場に打って出る SUV の GLA も、新型
コンパクトカーの第 4 弾として 2014 年 3 月に発売となります。メルセデス・ベンツ
ブランドについては 2014 年も SUV セグメントの他のモデルで、引き続き好調な業績が
見込まれます。2014 年下半期は、新型 C クラス ステーションワゴンや新世代の CLS
および CLS シューティングブレークの発売などによりさらに販売が伸びることが期待され
ます。

モデルラインアップについては、長期成長戦略「メルセデス・ベンツ 2020」に沿って、
今後もすべてのセグメントで一貫して拡大を図ることにしており、とくにコンパクトカーに
ついてはモデル数を 5 モデルまで拡大します。また併行して、最上級モデルについても
新型 S クラスの追加導入モデルや新たな SUV モデルなどにより、モデル攻勢を継続
していきます。

メルセデス・ベンツ・カーズを地域別に見ると、北米およびアジア市場は販売台数増加に大きく貢献する見通しです。アジアの中では中国市場がとくに重要で、すでに同市場の販売組織を大幅に強化しました。さらに、提供するモデルラインアップについては、コンパクト SUV の GLA 等を現地生産することなどにより拡大を図ります。また、販売店ネットワークを巨大都市以外にもいっそう拡張していきます。

スマートブランドは 2014 年、2 シーターの後継モデルと新型スマート 4 シーターを発表します。このモデルチェンジとそれに伴う生産調整により、同ブランドの 2014 年販売台数は昨年を大きく下回るとダイムラーでは予想しています。ただし、その後は新型モデル導入の効果により販売は大幅な増加に転ずる見通しです。

ダイムラー・トラックでは、2014 年は総販売台数の大幅増加を予想しています。西欧では、排ガス規制 ユーロ 6 の実施を見越した駆け込み需要が 2013 年下半期に生じたため、2014 年初は需要が落ち込むおそれがあります。しかし、景気が全般に上向き予測から、この低迷もまもなく打ち消されるはずで、ダイムラー・トラックでは、新しいモデルラインアップが出揃い、製品が市場で高い評価を受けるという絶好のポジションをいっそう強化したいと考えています。

ブラジルでは、2012 年に景気が低迷、2013 年には回復期に入ったものの、今年の需要は微減となる見込みです。生産、製品、販売を最適化する幅広い対策を講じることにより、ダイムラーの市場地位はさらに強化される見通しです。こうした対策の一環として、今後 2 年間で約 10 億ブラジルリアル(約 3 億ユーロ)の投資を行います。主な投資対象は、サンベルナルド・ド・カンポおよびジュイス・デ・フォーラ工場における新製品・革新技術の開発やプロセスの最適化および近代化となっています。

NAFTA 地域の販売台数は好調に推移し、2013 年を大きく上回る見込みです。昨年の市場シェア拡大を受けて、ダイムラー・トラックの製品は 2014 年もお客様のニーズに応え、強固な市場地位を引き続き確保していきます。

アジアでは、インドでのバーラト・ベンツ追加モデルの発売が販売台数増加に大きく寄与しそうです。加えて、新しい「アジアビジネスモデル」においても、相乗効果のポテンシャルとさらなる成長の可能性が生まれつつあります。日本では、わずかな市場拡大が見込まれており、ダイムラー・トラックもその流れを取り込んでいきます。

メルセデス・ベンツ・バンは今年、販売台数の大幅な増加を予測しています。シタンの投入によって、メルセデス・ベンツ・バンはバンのフルラインアップを供給することとなり、いっそうの成長機会を得ました。中型および大型バンについては、欧州で販売台数の

大幅増が見込まれており、新型スプリンター、新型ビトー、新型 V クラスはその需要をさらに刺激するものとなります。シタンについても販売台数のさらなる大幅な増加が見込んでいます。メルセデス・ベンツ・バンでは事業戦略「バンズ・ゴーズ・グローバル」を掲げ、北米、南米、中国でも事業拡大を続けていきます。

ダイムラー・バスの 2014 年の目標は、販売台数を大きく増やし、革新的で高品質の新製品により 8 トン超バスの中核市場で優位性を守ることです。ブラジルでは、2014 年はサッカーワールドカップの開催や、規模の大きなスクールバス市場向けの新製品投入によって販売台数が増加する見通しです。欧州の販売台数は安定して推移すると見込んでいます。さらなる成長のポテンシャルを生かし、競争力を強化することを目的に 2012 年にスタートした成長・効率戦略「GLOBE 2013」は、2014 年も優れた効果を上げることが期待されます。

ダイムラー・ファイナンシャル サービスでは、「DFS 2020」戦略にもとづき、今後も収益性を確保しつつ成長を目指しています。2014 年は、新規事業と契約額で大幅な伸びを見込んでいます。成長を牽引する主な項目は、各自動車部門が実施する攻勢や、新しいターゲット層となるより若い世代への訴求、アジアを中心とした事業拡大、ネット販売ルートのさらなる開拓、革新的モビリティサービスの展開などです。モビリティサービスについては、car2go 以外にもラインアップを組織的に拡大していきます。その例としては、モビリティプラットフォーム「moovel」や駐車場探しを支援するオンラインサービス、「Park2gether」などがあります。

グループとしての将来展望

ツェツェは次のように述べています。「2013 年に開始した取り組みによって、2014 年以降も事業に自信が持てるようになりました。計画は段階を踏んで進捗しています。成長・効率戦略が早くも成果を上げたことでさらに意欲が高まり、規律ある取り組みを続けています」。

ダイムラーでは、自動車市場の動向予測と各事業部門の計画にもとづき、2014 年も**総販売台数の**いっそう大幅な伸びを予測しています。これにともない、**グループ売上高**も大幅に増加する見込みです。各市場の今後の動向については、依然として多分に不透明ですが、需要は全般的に高まる見通しです。もう 1 つのプラス要因は、2013 年に全自動車部門で発売した、数多くの新型モデルが業績に寄与する見込みであることです。2014 年発売の新型モデルも需要を刺激するものとなるでしょう。さらに、アジア、東欧、ラテンアメリカなど成長市場の開拓をますます進め、一部市場については現地生産も行うことにしています。売上高の増加は全部門で予測していますが、絶対値で最も大きく貢献する部門は、ダイムラー・トラックとメルセデス・ベンツ・カーズとなる見込

みです。地域別では、新興国市場や北米で、全体市場を上回る伸び率を見込んで Page 9
います。

市場動向予測と各事業部門の計画にもとづき、2014 年の**グループ継続事業 EBIT** は
大幅な増加を見込んでいます。

部門別の 2014 年通期 EBIT 目標は以下のとおりです：

- メルセデス・ベンツ・カーズ：前年比大幅増
- ダイムラー・トラック：前年比大幅増
- メルセデス・ベンツ・バン：前年並
- ダイムラー・バス：前年比微増
- ダイムラー・ファイナンシャル サービス：前年並

ダイムラーでは中期目標として、市場および製品サイクルを通じた自動車事業の年間
平均売上高利益率を 9%とすることを目指しています。このために各部門に設定した
売上高利益率目標は、メルセデス・ベンツ・カーズが 10%、ダイムラー・トラックが 8%、
メルセデス・ベンツ・バンが 9%、ダイムラー・バスが 6%となっています。

2014 年は、**研究開発費**を引き続き、昨年並の高水準とするほか、**設備投資**も従来の
高い水準からさらに大きく引き上げます。ツェツェは「ダイムラーでは製品攻勢が
活気を帯び、効率向上プログラムが効果を上げ、そして投資が利益を生みつつあります」
と話しています。

生産台数は、業績予測によれば 2014 年も引き続き増加が見込まれます。同時に、
全部門で実施中のプログラムの成果により効率が大きく向上し、その結果、生産性も
大幅に改善される見通しです。以上のことからダイムラーでは、ほぼ安定した人員規模
でも成長目標を達成できると考えていますが、とりわけ北米、アジアでは、生産ネット
ワークの拡大に伴い、新しい雇用を創出する傾向にあります。なお、従業員数は、
ダイムラー・グループの従業員数には含まれない、中国およびロシアの合弁会社でも
増加する見通しです。